

朝日親と子の自然環境教室 報告

戸田 博子

去年に続き「朝日親と子の自然環境教室」が10月14日に行われた。

2週続きの台風襲来のため、稲刈りがうまく実施できるのか？里山の倒木整備は間に合うか？心配されることはたくさんあったが、当日は雨の心配もなく爽やかな日となった。

教室側参加者の親子46名、朝日新聞社関係者2名、シニア自然大スタッフ10名、本会員30名の総勢88名が秋のならやまサイトに集まった。

開会式では、関係者のあいさつの後、本日のスケジュールや野外活動の安全のための遵守事項について細かな注意・説明がなされ、記念撮影後、時間通り活動開始となった。

午前11時から稲刈り体験。会長から稲の刈り方や穂束の縛りかたの説明を受け、参加者は東西2方向に分かれて、稲刈り開始した。始めは鎌がうまく使えず、ノコギリのように束を切っていたが、慣れるにつれて「スパッ！」と切れるようになり、スピードアップしてきた。

作業が慣れてきた頃、「マムシ」出現のハプニング。それも参加者の男子が見つけたという、想定外のことが起こった。鈴木会長の捕獲で事なきを得た。マムシを見たことがない参加者が多く、これも里山体験の1つになったのではないかと思う。その後、ハザ掛けも順調に進み、予定通り12時に終了。



お昼は、ならやま名物の豚汁や野菜の和え物を持参のお弁当と一緒にいただき、ほりたて焼きサツマイモは子どもから「もっと食べたい」と声があがった。

午後1時から里山体験。

2つのグループに分かれて立木伐採と里山遊びをする。

活動場所へ行くため急傾斜の道を登って行くのは、子どもたちに冒険心と期待感を抱かせたと思うが、どうだったか？

ノコギリや枝切りハサミの使いかたを聞いたあと、一人1本の割り当てで伐採作業に移ったが、子ども1人に親、本会スタッフなど10名近くが見守り、口を挟みと大変なにぎやかさになった。

里山遊びも、木登り、平均台、ロープブランコ、変形木片だるま積み(?)など30分は短く感じた。

その後、少し学習。阿部顧問の「葉っぱ」のお話は、全員が熱心に聞いた。

普段はあまり注意を払わない、葉の形の違い、色、つや、におい、おおきさなど少しは覚えて帰ってくれたと思う。

時間がここでも不足気味だったが、帰りのこともあるので、里山体験も無事終了。



お金を払ってでも、このような体験を子どもにさせて、将来の生き方に役立てて欲しい人たちがいる。

報酬がなくても里山を守り、今ある自然を若い人たちに伝えたいならやまの会員がいる。

この二つの気持ちが出会って、すばらしい時間を作り出している行事だったと思う。